

同時開催 會津八一記念博物館企画展

殿塚・姫塚発掘60周年記念

甦る九十九里の埴輪群像

3D考古学の挑戦

2016年10月14日(金)

2016年11月19日(土)

観覧無料



早稲田
文化芸術週間
2016
シンポジウム

3D 考古学の挑戦

考古遺物・遺構の三次元計測 における研究の現状と課題

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター
共催：早稲田大学會津八一記念博物館、早稲田大学文学部考古学コース、
早稲田大学高等研究所、早稲田大学考古学会、
(以下、早稲田大学総合研究機構プロジェクト研究所)
東アジア都城・シルクロード考古学研究所、
比較考古学研究所、先史考古学研究所、
文化財総合調査研究所、エジプト学研究所

2016年10月16日(日) / 17日(月)

10:00～17:00(9:30開場)

早稲田大学 大隈記念講堂小講堂

入場無料、予稿集(A4フルカラー)は1500円で当日販売

三次元シンポジウム事務局

3dsympo.waseda@gmail.com ☎03-5286-3646 (考古学研究室助手：竹野内)



3D 考古学は新たなパラダイムを構築し得るのか。

近年、三次元計測は、考古学的情報を精緻かつ迅速に記録する手法として一般化し、多くの研究機関および地方自治体で用いられるようになりました。しかし、考古遺物・遺構の三次元計測を用いた研究はまだ始まったばかりで多くの課題があります。考古遺物・遺構の三次元情報は既存の実測図と何が違うのか。如何なる方法論で研究できるのか。三次元計測でしか明らかにし得ない考古学的情報とはなにか。

本シンポジウムでは様々な分野・時代・地域での事例を報告していただき、考古遺物・遺構の研究における三次元計測の可能性を探ります。

10月16日 日 (10:00-17:00)

野口 淳 (NPO 南アジア文化遺産センター)

「石器研究 3.0 3D 計測が拓く新たな地平」

水野敏典 (橿原考古学研究所)

「三次元計測と銅鏡研究」

城倉正祥 (早稲田大学)

「人物埴輪の三次元計測における研究の現状と課題」

山口吹志 (奈良文化財研究所)

「モンゴル文化遺産のデジタルドキュメンテーション」

河野一隆 (九州国立博物館)

「九州国立博物館と三次元文化財データの活用」

寺村裕史 (国立民族学博物館)

「古墳の三次元計測におけるデータ処理方法とその課題」

横山 真・千葉 史 (株式会社ラング)

「PEAKIT 画像処理による三次元情報の視覚化」

総合討議 (高橋龍三郎・長崎潤一・城倉正祥・発表者)

「三次元計測と考古学研究の可能性について」

10月17日 月 (10:00-17:00)

大網信良 (東京都埋蔵文化財センター)・平原信崇 (早稲田大学)

「土器施文痕跡の 3D マッチング」

佐野勝宏 (東京大学総合研究博物館)

「石器使用痕の三次元分析」

田畑幸嗣 (早稲田大学)

「カンボジアの文化遺産調査における三次元計測の取り組み」

寺崎秀一郎 (早稲田大学)

「開発途上国における 3D 技術の応用と展開 中米ホンジュラス共和国の事例から」

馬場匡浩・近藤二郎・河合 望 (早稲田大学)

「3D 活用の可能性 エジプトの場合」

渡辺 玲・佐藤悠登 (早稲田大学)

「石刃石器群の三次元計測と分析 石刃の選択性の行動論的解釈に向けて」

青木 弘 (埼玉県埋蔵文化財調査事業団)・ナワビ矢麻 (早稲田大学)

「横穴式石室の三次元計測と分析 若宮八幡古墳・埼玉鉄砲山古墳を事例として」

小林和樹・石井友菜・根本 佑 (早稲田大学)

「下総龍角寺出土遺物の三次元計測」

総合討議高橋龍三郎・長崎潤一・城倉正祥・発表者)

「三次元計測と考古学研究の可能性について」

